令和２年８月

各　　位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和２年８月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

毎年７月下旬に開催されている南郷サマージャズフェスティバルについて、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、今年の開催は中止となりましたが、過去の映像は動画投稿サイト「YouTube（ユーチューブ）」で配信されております。

今後、ダイジェスト版も順次配信される予定ですので、みなさま、ぜひ映像でお楽しみください。

◆過去の映像配信の詳細はこちらをご覧ください（市ホームページ）

https://www.city.hachinohe.aomori.jp/kanko_eventjoho/matsuri_event/nangosummerjazzfestival/14421.html

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-2 全国都市会館５階

電話 (03) 3261-8973 ／ FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸レポート 8月号

令和2年7月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
（1）	みなと体験学習館「みなっ知」が開館１周年　～震災の教訓 家族で学んで～
（2）	八戸市総合保健センター　全面業務開始

【産業】

記事	概要
（3）	八戸線「東北エモーション」 住民招待しJR社員が大漁旗で感謝
（4）	八戸市中央卸売市場に秋の味覚"マツタケ"入荷

【地域】

記事	概要
（5）	八戸花火大会8月23日決行　終息願い5670（コロナゼロ）発
（6）	館鼻岸壁朝市　３度の延期経て開幕
（7）	八戸高専 「酒の試験製造免許」取得
（8）	八日町に複合ビル完成　構想から８年 新たなランドマーク誕生
（9）	水産科学館マリエントで「さめ肌」体感　～サメの肌はざらざら？ぬるぬる？～
（１０）	水産科学館マリエント 「白いホヤ」展示
（１１）	千葉高生　中世の衣装・小袖の復元制作で昔ながらの草木染挑戦

【文化・スポーツ】

記事	概要
（１２）	～エンタメ復活願う光～　八戸市公会堂ライトアップ
（１３）	日本推理作家協会賞　呉勝浩さん（八戸市出身）が受賞
（１４）	YSアリーナ八戸　結氷作業スタート
（１５）	YSアリーナ八戸 「照明学会2019年照明普及賞」受賞
（１６）	南郷歴史民俗資料館　40周年特別展「現代刀匠展ー伝統技術の粋ー」開催
（１７）	夏季青森県高校野球大会　八学光星 決勝で涙
（１８）	ロッテの種市篤暉投手（工大一高出身）　プロ４年目で初完封

【行政】

記事	概要
（1）	**みなと体験学習館「みなっ知」が開館１周年　～震災の教訓 家族で学んで～** 八戸市湊町館鼻の市みなと体験学習館「みなっ知」が、7月6日で開館1周年を迎えた。みなっ知は、2007年10月に無人化された旧八戸測候所の土地と建物を市が国から取得して改修。1階では震災の津波発生から復興までを、2階では八戸の歴史や地域資源を映像などで学ぶことができる。災害時には、防災機能を備えた一時避難所としての役割も担う。開館からこれまで、新型コロナウイルス感染拡大の影響で客足が伸び悩んだ時期があったが、約4万人の来館者を集めた。「震災伝承施設」として東日本大震災の教訓を後世に伝えるため、今後も子どもを含む家族連れの利用促進に力を入れる。
（2）	**八戸市総合保健センター　全面業務開始** 新型コロナウイルスの影響により八戸市総合保健センターへの移転を延期していた市保健所、こども家庭相談室は、8月11日から同センターでの業務を開始した。介護予防の拠点施設として本年度、八戸市が市高齢福祉課内に新設した介護予防センターも同日移転し、各種事業を開始。健康や認知症に関する相談業務や、高齢者が気軽に集えるイベントなども開催するなどして総合的な支援事業を展開していく。

【産業】

記事	概要
（3）	**八戸線「東北エモーション」 住民招待しJR社員が大漁旗で感謝** JR東日本盛岡支社は7月20日、八戸線で運行されているレストラン列車「TOHOKU EMOTION(東北エモーション)」の乗客に向けて大漁旗を振るなど歓迎する活動を続ける沿線住民48人を招待し、久慈ー八戸間で同列車の試乗会を開いた。イタリアンのフルコースを振る舞ったほか、JRの社員ら35人が沿線に飛び出し、住民に代わって大漁旗を振りながら列車と並走。感謝の気持ちを届けるとともに、新型コロナウイルスの影響で休止していた同列車の"再出発"を前に関係者が心を一つにした。同列車は7月24日から運転を再開した。
（4）	**八戸市中央卸売市場に秋の味覚"マツタケ"入荷** 八戸市中央卸売市場に、秋の味覚の代表格、マツタケが早くもお目見えし、関係者を驚かせている。下北地域産が入荷し始め、その後岩手県産も上場。愛好家の間では「土用マツタケ」「梅雨マツタケ」などとして知られた存在で、気温の変動や降雨量などで秋のような条件がそろうと生えるもの。本格的なシーズンでないとはいえ、香りはマツタケそのもの。競りでは6本入り290グラムに1万6千円の値が付いた。

【地域】

記事	概要
（5）	**八戸花火大会8月23日決行　終息願い5670（コロナゼロ）発** 八戸市の夏の風物詩・八戸花火大会を主催する大会委員会は、今年の大会を8月23日に開催することを決めた。午後7時スタートで、例年より時間を短縮して1時間程度で終了。会場の館鼻岸壁に入場できるのは招待客や有料観覧席の購入者に制限する。離れた場所でも見えやすいように大玉の花火を中心とし、新型コロナの終息を願って5670（コロナゼロ）発の打ち上げを目指す。コロナ禍で各種イベントの中止が相次ぐ中、今年も夏の夜空に大輪を咲かせて地域に活力を創出したい考えである。
（6）	**館鼻岸壁朝市　３度の延期経て開幕** 国内最大級の朝市として知られる館鼻岸壁朝市が7月5日、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、約3カ月半遅れで開幕の日を迎えた。会場では入場を千人以下に制限し、来場者の体温やマスクの着用を確認。出店者もフェースガードを着けながら接客するなど予防を徹底した。日が昇り始めたころには、続々と家族連れらが訪れ、新鮮な魚介類や青果物、惣菜などお目当ての商品を買い求め、久しぶりにハマににぎわいと活気が戻った。
（7）	**八戸高専　「酒の試験製造免許」取得** 八戸高専は、学校や教育機関で酒類製造に関する研究に必要な「酒の試験製造免許」を取得した。同校は2011年、酒母・もろみの製造免許を取得し、主に青森県内で採取できる酵母のアルコール発酵力の解析などを実施。近年は、ツバキから抽出した「八戸高専椿山酵母」を商業登録してブランド化し、商品開発を実現している。今回取得した免許で製造できるのは、清酒、ビール、果実酒、リキュール、その他の5酒類で、これまで取り組んでいた酵母製造の研究を発展させ、産学官連携を進める狙いである。
（8）	**八日町に複合ビル完成　構想から８年 新たなランドマーク誕生** 八戸市八日町の旧長崎屋跡地の再開発計画で、建設が進められていた複合ビル「DEVELD(ディベルド)八日町」が7月末に完成した。1階は商業フロアで大手コーヒーチェーン「タリーズコーヒー」と商工中金八戸支店が入居し、路線バスの待合スペースを設置。2～13階はマンションで全57戸が既に完売している。2012年の再開発構想の浮上から8年余り、長らく空きビルだった場所が解消され、地上13階建て高さ40メートルを超える新たなランドマークが誕生した。
（9）	**水産科学館マリエントで「さめ肌」体感　～サメの肌はざらざら？ぬるぬる？～** 八戸市水産科学館マリエントでは、タッチ水槽でトラザメの「さめ肌」を体感できる。トラザメは朝鮮半島東岸やフィリピンなどに生息し、日本近海では北海道南部以南に広く分布する。体長は最大でも50センチほどで、おとなしく人に危害を加えることはないが、ひれをつかんだり、尾びれを引っ張ったりすると嫌がって逃げてしまう。背面と体側は褐色で、頭から尾にかけて、6～10本の濃茶色のしま模様がある。

（１０）	**水産科学館マリエント「白いホヤ」展示** 八戸市水産科学館マリエントに白いホヤが展示されている。7月上旬に地元漁師が「見たことがないホヤを取った」と持ち込んだもので、これまでに同館では白いウニやナマコを展示したことはあるが、ホヤは初めてだという。通常のホヤは赤色で、北の海で見つかるのは珍しいという。水槽では通常のホヤと並べて「紅白ホヤ」として展示している。
（１１）	**千葉高生　中世の衣装・小袖の復元制作で昔ながらの草木染挑戦** 八戸市博物館で7月25日、中世の衣装・小袖の復元制作が行われた。千葉学園高生活文化科3年生5人が、昔ながらの草木染を体験し、衣装作りに使う木綿布を染めながら、日本の服飾文化への関心を高めた。染料には史跡根城の広場で採取した栗と、是川縄文館敷地内で採取したトチの2種類を用意。枝や葉を煮出した染料の中に布を投入し、色むらができないように丁寧に布をもみ込んだ。今回染めた木綿は、8月上旬に小袖に仕立て、10月に開催予定の史跡根城まつりで披露する。

【文化・スポーツ】

記事	概要
（１２）	**～エンタメ復活願う光～　八戸市公会堂ライトアップ** 八戸市公会堂の指定管理を務めるアート＆コミュニティは7月6日、新型コロナウイルスの影響で自粛を余儀なくされているイベント関連事業者を勇気づけようと、市公会堂をオレンジ色にライトアップした。全国でイベント関連事業者を励ます「JAPAN#31プロジェクト」の一環。「#31」は舞台照明の色番号でアンバーを意味し、黄褐色には「温かい」「穏やか」などのイメージがあることから、一日も早く穏やかな日常を取り戻せるようにとの願いを込めた。エンターテインメントの復活を願う"希望の光"のライトアップは、毎週月曜の午後8～9時、7月末まで行われた。
（１３）	**日本推理作家協会賞　呉勝浩さん（八戸市出身）が受賞** 第73回日本推理作家協会賞の選考会が7月9日に東京都内で開かれ、八戸市出身の呉勝浩さん(38)の「スワン」（KADOKAWA）が長編及び連作短編集部門に選出された。同作は、第162回直木賞候補に選ばれたほか、第41回吉川英治文学新人賞を受賞している。呉さんは、2年連続2度目の候補入りで、受賞を果たした。
（１４）	**YSアリーナ八戸　結氷作業スタート** 屋内スケート場YSアリーナ八戸で7月20日、今季の結氷作業が始まった。6月末から床のコンクリートの冷却をスタート。その後、リンク上のラインを引く箇所を確認し、結氷作業へと移行した。この日は午前8時から午後5時までスタッフ8人が5回に分けてホースで丁寧に水をまき、タイムが出やすい滑らかな氷を作るため、準備を進めた。同アリーナは7月29日に競技者向けにオープンし、8月以降、東北地方や長野、岐阜両県などの学生、実業団の予約が入っている。一般開放は10月を予定している。

（１５）	**YSアリーナ八戸 「照明学会2019年照明普及賞」受賞** 優秀な照明施設に与えられる「照明学会2019年照明普及賞」に、「YSアリーナ八戸」が選ばれた。照明普及賞は照明学会（東京）が1957年に創設し、視環境や照明技法に優れた住宅や事務所、スポーツ施設などに毎年贈られている。YSアリーナ八戸は、スケート競技中の選手の目線を考慮し、選手背面からの照射によるグレア（まぶしさ）や氷上反射光の低減を行った設計が評価された。設計者の山下設計（本社・東京）の代表者が7月21日に八戸市庁を訪れ、施工主の市に受賞を報告した。
（１６）	**南郷歴史民俗資料館　40周年特別展「現代刀匠展ー伝統技術の粋ー」開催** 南郷歴史民俗資料館で、開館40周年記念特別展「現代刀匠展ー伝統技術の粋ー」が9月6日まで開かれている。目玉展示である現代刀匠の作品展示では、物を削ることに使う6センチの刀子（とうす）から90センチを超える太刀まで、17振りが並んでいる。刀の大小だけでなく、「刃文」と呼ばれる刀身の波状の模様も見どころ。往年の日本刀ファンだけでなく、映画やアニメで興味を持った初心者にもお勧めである。
（１７）	**夏季青森県高校野球大会　八学光星 決勝で涙** 全国高校野球選手権青森大会の代替大会として開催された夏季青森県高校野球大会の決勝戦が7月28日、青森市のダイシンベースボールスタジアムで行われた。昨秋の県大会覇者・青森山田が昨夏優勝の八学光星を8-5で下し、出場55チームの頂点に立った。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各試合は当該校の部員や保護者らを除き原則無観客。応援合戦などもなく、甲子園の切符も懸からない例年の夏とは趣の異なる大会となった。
（１８）	**ロッテの種市篤暉投手（工大一高出身）　プロ４年目で初完封** 7月25日にメットライフドーム（西武ドーム）で行われた西武ーロッテの10回戦で、ロッテの種市篤暉投手は9回、2死満塁のピンチでスパンジェンバーグを空振り三振に仕留め、プロ4年目で初完封。パ・リーグ完封一番乗りで3勝目を挙げた。種市投手は工大一高から2017年にドラフト6位で入団。無名の存在から貪欲に成長を求め、昨季8勝を挙げて飛躍した。「投手として完投、完封はしたかった。9回を投げ切れる自信になった」と充実感に浸った。